



平成29年度  
留学生ホームステイ  
思い出の文集

公益財団法人 新潟市国際交流協会

日 程 表

☆7月29日（土曜日）

場所：クロスパルにいがた

午後1時 対面式、諸連絡、記念撮影

午後1時30分 各ご家庭へ

☆7月30日（日曜日）

午後3時 各ご家庭にて解散

★27家庭32人の留学生（8か国1地域）で行いました。

## 中国：丁 约翰 (てい やくかん)

## 【訳文】

1 泊のホームステイはとても短かったが、留学生の私にとって、日本の家庭文化を余すところなく、体験でき本当にうれしかった。

期待いっぱいに対面式に臨んだ。イスに座り、周囲を見回し、ホストファミリーを探したが、分からなかった。対面式が始まり、最初に名前が呼ばれ、驚いた。会えた。

家に帰る途中から体験が始まる。バッティングセンターへは、初めて行った。最初は空振りばかりで、だんだんと自信がなくなってきたが、ホストファミリーが励ましてくれ、何度か良いスイングができた。

次は卓球。中国は卓球大国と言われており、中国人なら誰でも卓球が強いと思われるようだが、玉拾いの頻度から、かなり負けていると分かった。30分で汗びっしょりになり、降参だった。

夕食はたこやき。水、材料などきちんと測るところは、日本人の真面目さと正確さに感心した。中国の料理本に書いてある“少々”や“若干”は本当にいい加減だと思った。準備もでき、焼こうとしたら、肝心なたこがなく、慌てて切った。

夕食後は緊張と刺激的なUNOゲームが始まった。最初はルールが分からなく、負けていたが、だんだんやり方も分り、時間が経つのも忘れ夢中になった。12時を回り、翌日は弥彦に行く予定だったので、慌てて寝た。

翌日の天気は晴れ、少し暑かった。予定通り10時に起床し、朝ご飯を食べてから出発した。地図を見る限り、それほど遠くないと思っていたが、それでも車で30分かかった。道路脇に広がる緑豊かな田んぼや畑を見て、すがすがしい気持ちになった。

弥彦神社に着き、まず大自然に圧倒された。神社に足を踏み入れた瞬間、自然の爽快な空気が漂い、にぎやかな街と生活から離れ、心が落ち着いた。

弥彦神社には火の玉石があり、願いごとを頭の中で思い浮かべ、石を持ち上げる。その時に、「軽い」と思えば願い事が成就。「重い」と思えば叶えることは難しいと言われているそうだ。私の願いは、『企業倫理』の単位をとることだった。石は軽く持ち上がった。その後『企業倫理』の単位が本当に取れた！

次は海に行った。海と言えば太陽、砂浜、波だが、ここは人と魚だった。魚はとても新鮮で、市場は人でごった返していた。焼きたての魚、山盛りのいくら軍艦巻き、新鮮な刺身など食欲をそそり、よだれが流れっぱなしだった。

ここで昼食にした。ベンチに座り、寿司を食べながら、遠くの景色を眺めていると、この幸せで心地よい午後の時間が止まってほしいと思った。

20時間あまりのホームステイが終わった。車で1時間かけ、迎えに来て、行く場所などを考え、生活習慣や文化の違いを乗り越え、家族のようにおもてなしをしてくれたホストファミリーがすごいなあと思った。ありがとうございました。



## スリランカ：チャモド

せんげつの29日から30日までホームステイにきました。とてもたのしかったです。

ホームステイのひとは、とてもとてもやさしくて、しんせつなひとです。

ホストファミリーにちいさいともだちいます。このともだちはいぬです。いぬのなまえは、まりんです。まりんはかわいいです。私、まりん、あいしています。

私に、にほんのりょうり、たくさんつくりました。りょうりはとてもおいしいです。

ーしょにやひこじんじゃへいきました。そしておんせんにはいりました。私はおんせん、はじめてです。おんせんはきもちいいです。

私のホームステイはとてもたのしかったです。

ありがとうございます。



## 夏休みのホームステイ

## スリランカ：ディーラカ

ホームステイは私のじんせいでわすれないばめんです。私は日本についてたくさんのことをまなんだ。

ホストファミリーはとてもしんせつです。私達のためにたくさんのおもものをつくりました。

ホストファミリーにはちいさいいぬがいる。マリんはいぬのなまえです。

私たち、おんせん、いきました。

ホームステイは私にとって、とてもじゅうようなことだとおもうのです。

さいごに ホストファミリーにかんしゃしたい。



## 中国：孙 士淼 (そん しびょう)

## 【訳文】

1 泊 2 日のホームステイ、楽しく、収穫も多くあり、私にとって特別な経験となった。

ホームステイの前は、どんな人たちなのか、私のことを気に入ってもらえるか、緊張と不安な気持ちでいっぱいだったが、対面式では、笑顔で挨拶ができた。

私は料理が好きなので、夕食を一緒に作ることにした。「何が好き？」などいろいろ聞いてくれ、一緒に買い物をしていると、家族の一人になったような気持ち

ちになった。家に着き、おばあちゃんがすごく丁寧な挨拶をしてくれて、日本文化の「礼」に深く感銘を受けた。

日本文化もたくさん紹介してもらい、私も中国の生活習慣など話し、両国の文化の違いを感じながら、たくさん話し、交流ができた。

夕食の寿司を一緒に作った。寿司作りは、真面目で、いい加減なところがなく、日本文化の深さを感じた。

二日間、本当に楽しかった。家庭の温もりだけでなく、家の隅から隅まで日本文化を深く感じる事ができ、実りのある時間を過ごせた。

完璧な体験をさせていただいたホストファミリーに感謝する。また、留学生のために日本の家庭を体験させるこのような機会にも感謝する。

私の留学生活にまた忘れられない思い出の1ページが増えた。



### ベトナム：グエン ティ ズン

#### 【訳文】

日本は昔から美しい国といわれている。その美しさは景色だけでなく、人の人格にもある。それは日本についての番組を見るとわかる。それで、私は日本語を勉強し、働きたいと望んだ。

日本に来て、番組の通りだと思った。

そして、留学中にホームステイを体験することが出来た。日本の文化、風習、日本人がどんなに親切かなどを理解でき、本当に勉強になった。

ホームステイの前はどんな家族かな、彼らは親切かな、自分はどう接したらいいのかな、などいろいろなことが頭の中に浮かんだ。対面式では、ドキドキしながら、名前を呼ばれるのを待った。

ホストファミリーには、同い年の子どもがいた。私たちは、お互いにすぐ理解でき、私はうれしくて、安心した。

お母さんは私にいろいろ話しかけてくれたが、私は恥ずかしかったから、あまり話せず、笑うだけだった。でも、ベトナムのこと、自分のことを話したら、うれしそうに聞いてくれた。

家に着いたら、ビックリした。部屋を飾り、壁に「ようこそ」という字が書いてあり、それを見たとき、泣くほど感動した。

ホストファミリーがベトナム料理を食べたいと言ったので、私たちは一緒に買い物に行き、一緒に作った。私たちはたくさん写真を撮って、たくさん話して、たくさん笑った。

食後は、おじいさんとおばあさんの家に行き、そこで泊まった。彼らは非常に優しく、親切で、私は自分の親戚のような暖かさを感じた。

次の日は海に行った。海はきれいだった。

あっという間に時間が経ち、帰る時間が来た。

送ってくれた。別れの挨拶をしていたら悲しくなった。でも、連絡先を教えてくれたから、また、会うことができる。

いろいろな体験をさせてもらった家族にすごく感謝している。ありがとうございました。



### 中国：ZHU LI (シュリ)

#### 【訳文】

今回のホームステイは、間もなく日本を離れようとする私にとって、とても素晴らしいプレゼントになった。来日前から、日本のドラマやマンガを見るたび、日本の家庭生活に憧れ、体験してみたいとずっと思っていた。

日本の生活、伝統文化を体験できる良い機会であるホームステイ、この素晴らしい活動に本当に感謝している。

初めてのホームステイだったので、家族の人たちとうまく交流できるかな、気まづくなったらどうしようかなと、二日前からずっと戸惑いと不安でいっぱいだった。前日の夜、ホームステイについての冊子が届き、ホストファミリーとの過ごし方や注意点、準備するものなどが少し分かった。

対面式でも、ずっと緊張していたが、ホストファミリーのお母さんの笑顔を見た瞬間全部飛んだ。

お母さんは農学を学び、新潟大学農学部の先輩だと知り、「“縁”って、本当に素晴らしい！」と感じた。お母さんの笑顔のお蔭で、終始リラックスができた。

ホームステイの間、多くの感動と温もりを感じた。庭での花火や買い物の時、中国の母のために日本製のお土産を一所懸命探してくれたこと、おばあちゃんが私のためにと置いてくれたマンゴーの味、初めて体験することもたくさんあった。

別れの時、朝食を抜く私のために、パンをたくさん買ってくれた。この暖かさは一生忘れない。

1日半という短い時間だったが、確かに日本の家庭の朝、昼、晩を体感できた。ずっともらえばなしで、何もお返しができなくて、申し訳ないと思っている。

もし機会があれば、ぜひ中国の伝統文化を紹介したいと思う。

素晴らしい家族に出会えて本当に幸運だった。

本当にありがとうございました。



**ネパール：Maharjan Anju**

この度は留学生のためのホームステイで選ばれてとても嬉しかったです。ありがとうございました。

このホームステイは私が日本に来て初めてです。とても楽しみしていました。日本人の家に入ったことも初めてだったのでいろいろ期待していました。

新しい経験できることもたくさんあったし、ホストファミリーのママとパパからいろいろなことを教えてもらいました。

料理や洗い物でも日本人の習慣がわかりました。毎日の生活では日本人のため普通と思われることも外国人のためは珍しくなるのがあたりまえです。そのこともわかりました。

あとお子さんたちと過ごした時間も楽しかったです。手作りするのをも教えてあげました。次の日、福島湯にも行って楽しくしました。

その経験をできてとてもうれしいです。また今度もよろしくお願い致します。

**初めて納豆に挑戦****中国：劉 南希 (りゅう なんき)****【訳文】**

窓越しに白く輝く月を見ると、ふるさとを思い出す。母の手料理、祖母の暖かい手…。

幼いころ、唯一の楽しみは祖母と一緒に寝ることと、昔の話を聞くことだった。

娘時代の祖母にも会えた。麦わら帽子を背負い、友達と一緒にキラキラ光る川辺を歩きながら歌っていた。若さ溢れる顔は、満面の笑みだ。

その時の祖母と同じ年齢で、私は日本へ留学した。

私は日本の文化にずっと興味があり、今回のホームステイで、家庭生活を体験し、日本文化に新たな認識をもたらした。

日本の食習慣については、中国にいたときからなんとなく聞いていた…寿司、刺身、納豆など。でも今まで納豆の独特の匂いが嫌で、ずっと食べなかった。お母さんはそのことを知って、朝食にネギがたっぷり入っている納豆を作ってくれて、一粒食べてみると励ましてくれた。私は恐る恐る一番小さい粒をご飯と一緒に飲み込んだ。匂いもなく、少ししょっぱくて、ネギのさわやかな香り、柔らかい触感もあった。意外とすんなり食べられ、もっと食べてみたいと思ったくらいだ。これこそ私の初納豆。いまでは病みつきになり、納豆が大好きになった。

納豆のほかに焼き餃子、たこやき、おにぎりなど、どれもおいしかった。一緒に家庭料理を作り、久しぶりに家庭の温もりを感じた。暖かくて、楽しい週末を

過ごすことができ、異国にいる私たちに家庭の温かさを感じさせてくれた、お母さんのおもてなしに感謝します。

**ベトナム：フォン ホン フォン**

人生の中で誰に会えるかは、いつも縁のためだと思っている。

今回のホームステイを申し込んでいても、ホストファミリーに一泊泊まって、そのホストファミリーに迷惑を掛けないか、自分が皆とコミュニケーションができるのか、特に両国の文化の違う点がいっぱいあるので、何か失礼をしてしまうのか、いっぱい考えたので、対面式にホストファミリーと自分の指名を待つ時、すごく緊張していた。

良かったのは、ホストファミリーの二人の姉妹は私の年齢と近いし、二人とお母さんが優しいらしいし、息が吐けた。初めて会っても付き合いやすいので、感動した。後一番心配なのはホストファミリーのお父さんだ。お父さんも優しいから、私は今回、運がいいと思っていた。

最初にお母さんと皆に美味しい食べ物をご馳走されて、私は海が好きだと言ったら、遠くても綺麗な海を連れてくれた。長い時間、海へ行かなかったのに、皆と海で遊んだり、笑ったり、海の石は大きいので、裸足で歩いて、皆と私が痛いと言っても、凄く嬉しかった。どんなに知らない人でも一緒に喋ったり、笑ったら、もっともっと深くなると思っている。

後は色々な話を通じて、ベトナムと日本の文化が色々な点で同じであると分かった。死んだ人に線香をつけて、特別な時に家に迎えるとか…。

ホストファミリーはお爺さんとおばあさんと近く住んでいて、それを見ると、私の家と同じ、おばあちゃんも近くに住んでいて、やはりそれは田舎の町だけあると思っている。

朝、朝ごはんを準備していると、皆が集まって、話して、お母さんと二人の姉妹がキッチンの回りに居て、それを見ると、家族の愛情が見えた。急にベトナムにいる家族を思い出していた。

ホームステイの二日間に皆に会うだけじゃなくて、いっぱい出会えて、二人の姉妹と友達になって、日本にいる二番目の家族を作りたいと思っている。

**ロシア：ギルファノア・ダリヤ****【訳文】**

ホームステイに参加した。こんなに素晴らしい機会に恵まれるとは最後の最後まで信じていなかった。な

ぜんら、ホームステイの応募者がたくさんいて、厳しい競争だったからだ。

家族は5人。お父さん、お母さん、小さい子どもが3人いる。

実は、小さな子どもに会うことがちょっと不安だった。一人っ子の私には、元気いっぱい、ロシア語の通じない子どもたちとどう接すればいいのか想像ができなかった。ところが、会ったとたん、小さい手が私の手を握ってくれた。その瞬間、このホームステイはきっと楽しくなるなと思った。そしてこの家族との2日間は、一生忘れられない思い出になった。

私は日本語を話せるが、たまに子どもの話しが分からないときがあった。しかし、共通の言葉も見つけることができ、仲良くなれた。私が子どもと一緒に遊び、すごく盛り上がっていることに、自分自身で驚いていた。

そして、暖かいおもてなしをしてくれたホストファミリーに感謝している。茶道の体験、地元の祭り、大勢で食べる夕食。次の日は、海岸でバーベキューもした。

一番は、日本の生活スタイルに触れることができた。素敵な家族だと感銘した。

子どもたちは小さい時から英語の勉強に励んでいた。両親は子どもに愛情を込め育ており、その教育にも熱心だ。この家族は、見本の家族かもしれないと思った。そして、私もそんな親になりたいと思った。子どものために、我慢強く、賢いお母さんになりたいと。

このホームステイの唯一のマイナスの点は、時期にある。私は帰国する一週間前だった。交換留学生のプログラムは1年で、8月に終了し、9月からはロシアの大学での勉強が始まる。こういう留学生が多いと思う。そのため、出会いは帰国する直前になり、再会する時間もない。もっと一緒に過ごす時間が欲しかった。だからホームステイが冬か春だったらよかったのと思った。

ホストファミリーと再会できないのはとても残念だが、ホームステイを体験させてもらい心から感謝している。



### マレーシア：徐麗燕 シュリーイエン

今回のホームステイに参加できて本当にうれしかったです。人と人のコミュニケーションを通じて、お互いにほかの国のことをより深く知り合ったと思います。とても有意義な2日でした。

受け入れてくれた家庭になぜホームステイに参加

するかときいたところ、子ども達が将来ほかの国にホームステイプログラムに参加したら、どうやってするかを子どもに教えてあげたい、そして英語に興味を持っている子どもに練習するチャンスがあったら助けたいという気持ちがわかってきました。

やはりお母さんというものは偉いですね。子ども達の教育にいろいろ努力をします。自分の英語はあまり上手じゃないですが、何か手伝えるところがあれば、頑張っ一緒に練習したいと思います。

正直わたしは人との交際は苦手です。しかし言語学を勉強する上で、たくさん話さなければなりません。そうしないといくら文法を勉強しても、上手に話せません。

ホームステイの説明会のあと、町廻りしました。そして夜、千灯祭りへ行きました。次の日は4D映画を見に行きました。初めて4Dの映画を見て、とてもおもしろくて楽しかったです。

そのあと寿司を食べて、少し休んでバトミントンを楽しもうと思ったが、時間が足りなくて結局しませんでした。ちょっと残念でしたが、もしいつか機会があったらぜひやりたいと思います。



### 中国：谢 雨璇 (しゃ うせん)

#### 【訳文】

二日間とても楽しく、素晴らしい体験をさせてもらい、家族のおもてなしにもとても感謝している。

ホストファミリーには3人の子どもがいて、会ったとき、中国語で挨拶をしてくれて、とてもうれしかった。

家族はよく海外旅行に行くそうで、特にお父さんは、中国に2回も行き、2008年の時はチベットにも行ったそうだ。その日の夜、旅行の写真を見せてもらった。

お兄ちゃんは、自立心が強く、出かけるときは自分でかばんを持ち、しかもお父さんお母さんの水筒も持っていた。

弟は、最初は恥ずかしがって話さなかったが、慣れたら、たくさん遊んでくれた。とてもやさしく、別れの時、プレゼントを渡してくれた。

3歳になったばかりの妹は、抱っこが大好きなちょっと甘えん坊だけど、お姫様のようにとてもかわいい。

初日、近所の祭りに行った。子ども相撲はとても面白かった。夕食は、私たちが餃子をお父さんがたこやきを作り、おなかいっぱいになるまで食べた。

翌朝は、日本の朝食、しかも納豆も食べた。その日は、マリンピア日本海に行き、子どもたちと走りまわり、イルカショーも見た。お昼は、和食をごちそうになり、「おいしい料理をありがとうございました。」

帰る直前、チョコレートケーキを買ってくれて、本当にうれしかった。一生忘れない思い出。

二日間、嬉しくて楽しくて、遊び疲れたが、家族には本当に感謝の気持ちでいっぱい。

半年間のとても短い留学だったが、親切、やさしさ、暖かさをいっぱいもらった。このような機会を与えてくれて本当に感謝している。



### 中国：儲佳容 (ちょ かよう)

#### 【訳文】

ホストファミリーはとても親切で、素晴らしいおもてなしをしてくれた。

お寿司、マリンピア日本海、護国神社、線香花火など忘れられない思い出ばかりだ。

お父さんがたこ焼きを作ってくれて、お返しに餃子を作った。楽しく充実した時間を過ごした。

二日間のホームステイを通して、子どもたちがとても礼儀が正しく、親の言うことをよく聞くと感じた。

親もちゃんとしつけをし、安易に子どもを叩かない。子どもたちが分かるまで丁寧に説明をする。このような教育方法はすばらしいと思った。

機会があればもう一度ホームステイをしたい。家族に感謝している。



### タイ：フォアルアングリット・ジャガパン

留学生のためのホームステイは、アクティビティがいいです。日本の文化をしることにして、交流です。そして、日本語をれんしゅうします。

私は、はじめてホームステイに来ました。その時の気持ちは、おもしろくてきんちょうすることでした。ホームステイの家族は、4人がいて、猫は2匹がいます。ホームステイの家族は、かわいい家族です。そして、ホームステイの家族も、はじめてのホームステイの受入れでした。

日本人の家は、おおきくなくても、きれいでおもしろいでした。私は、ホームステイの家族に、タイの料理をつくりました。でも、本当においしいですか。分かりません。

子どもが、ピアノをひきました。気持ちが、ロマンチックで幸せでした。それから、一緒にご飯を食べて、テレビを見て、いろいろなことを話しました。楽しかったです。

朝は、日本の料理を食べました。サラダやなっとうなどがありました。なっとうを食べたことがなくても、食べてみました。なっとうもおいしいしかったです。

私たちは、やひこのじんじゃに行きました。やひこのじんじゃは、ゆうめいでした。かんきょう

とけしきもきれいでした。幸せでした。

さいごに、ホームステイの家族に伝えたいです。「とてもありがとうございました。ホームステイの時間が、楽しくておもしろくて幸せでした。」



### ベトナム：ヴォ ティ フオン タオ

ベトナムから参りました留学生のヴォティフオンタオです。2017年7月29日—30日に新潟市国際交流協会が行った「留学生のためのホームステイ」に参加しました。

ホストファミリーの皆さん、ホームステイさせていただき、誠にありがとうございました。二日間の短い時間でしたが色々な体験でき、いい思い出がありました。

おばあさんたちが日本の茶道と折り紙を丁寧に教えていただきました。みんないっしょにBBQをしながら話しました。私もベトナムのことについて紹介できて、嬉しかったです。

よかったのは、家の近くで小さな祭りがあり、子どもの踊りから、皆の伝統な踊りまで、とても楽しかった。漫画に見られる伝統なゲームも体験できて、ほんとに日本にいることを感じました。

翌日、日本風の朝ご飯をたべてから、イルミネーションを見に行き、とてもきれいでした。

日本に来て、今回が初めての日本人の家族の生活に直接触れ合うことができました。もっと日本人の親切さを感じて、感動しました。



### 中国：鄭 淇元 (てい きげん)

#### 【訳文】

今回のホームステイを通して、学ぶことが多くあった。

例えば、中国の大学生のほとんどは学生寮に入るが、日本の学生は8割以上が、学校近くにアパートを借り、一人暮らしをしたり、実家から通う。また、学費や家賃が高く、家庭の負担が大きいと聞いた。通学の距離を考え、家の近くの学校に通う人も多いとか。そして、高校進学まで受験がないというのは、本当にびっくりした。

大学の理系と文系の分類も違う。日本では日本史と世界史は二科目に分かれているが、中国では中国史と世界史は同じ歴史の科目になる。

日本では、小学校から勉強以外に音楽、体育、美術などあらゆる分野を重視している。基礎知識はもちろ

ん、多くの子どもたちが楽器をする。私はこのような教育制度が好きだ。

ホストファミリーと過ごす中で、他にも面白い体験があった。食事の直前に食材を買いに行くこと。しかも一食分だけ買う。中国では、共働きの家庭が多く、買い物をする時間が無いため、たくさん買って、保存する。料理は、冷蔵庫にあるものを使う。日本は多くの母親は専業主婦で、一日3回買い物をするとも聞いた。

ホストファミリーと交流したり、中日文化の比較をしたり、とても楽しく面白かった。1泊2日は長いようで短く、もっと話したい、交流したいという気持ちだったが、素敵な思い出もたくさんできた。

ホームステイはとても意義のある活動だと思う。

この思い出はずっと大切にしたい。

ありがとうございました。



### 中国：鄭 淞民 (てい しょうみん)

#### 【訳文】

4月に新潟に来て、留学生活も慣れてきたころ、1泊2日のホームステイに参加した。日本に来て3か月、最も充実した、とても有意義な二日間となった。この二日間を通して、日本の文化、そしてその魅力に深く感銘を受けた。

まず温泉に行った。はじめての温泉で温度もちょうどよく気持ちよかった。

夜は花火をした。中国でもやったことはあったが、やり方が少し違った。

翌日は、早起きをし、朝食を食べながら、たくさん話した。お父さんは歴史の先生で、日本の歴史文化をいろいろ教えてくれた。

朝食後、浴衣に着替え、お母さんが茶道のお点前をみせてくれた。20年あまりずっと茶道を続けており、立ち居振る舞いは本当に美しかった。点てながら茶道文化を紹介してくれた。お茶の飲み方、和菓子の選び方など茶道の心がまえに和敬清寂、一期一会、独座観念だと感じた。

日中の茶道はそれぞれ特徴があり、その魅力に魅了された。挿絵の腕前もすばらしかった。お母さんは本当に上品で完璧な女性だ。

この二日間で、日本文化をより深く理解できるようになり、その静と美を自ら体験することができた。

二人の素敵な先生に出会えて、本当に幸運だった。大変お世話になり、ありがとうございました。

### 中国：劉 曉倩 (りゅう きょうせい)

#### 【訳文】

ホームステイに参加できて本当にうれしかった。ホストファミリーはとてもいい人で、新潟の歴史について話してくれた。新川と西川に行き、一緒に写真を撮り、そして角田山と角田浜にも行って、かき氷を食べたり、温泉に入った。

家は伝統的な日本家屋だった。荷物を置き、すぐ今晚の食材を買いに行った。「何を食べたい？」と何回も聞いてくれて、とてもうれしかった。花火も買った。夜の花火がとても楽しみだ。

家に戻り、お風呂に入り、そのあといろいろな種類の花火をした。やっぱりとても楽しかった。

夕食はカレーライス。食べながら中国の話をした。2008年、家族で中国に行ったそうで、何かの縁だと思った。

翌日、茶道を体験した。お母さんは長年、茶道を続けていて、日本の茶道について詳しく紹介してくれた。以前、中国で体験したが、本格的な茶道は初めてだった。最初から最後まで静かで、しかも和服を着ていた。雰囲気満点だ。

お昼は流しソーメンだった。専用の器械があり、とても面白かった。

1泊2日のホームステイを通し、多くの日本文化を体験し、たくさん交流できた。学ぶことも多く、とても有意義な活動だと思う。同時にいろいろとご迷惑もかけたと思う。皆さんに感謝です。本当にありがとうございました。



### 留学生を受け入れて

#### 阿部 佳子

留学生受け入れにあたり、我が家は誰も英語が話せないことやどんな人が来るのだろうと、不安な気持ちで対面式へ出席しました。我が家へ迎えたのはとても日本語が上手な中国出身の大学生だったので、少し安心しました。

対面式の後、バッティングセンターへ行きバッティングと卓球をしました。中国では卓球が盛んでみんながやっていると思っていましたが、あまりやらないようで新しい発見をしました。

夕飯にはたこ焼きを作りました。たくさん中国の話聞きながら楽しく食べました。日本の食事を好き嫌いなく食べてくれたので良かったです。

夕食後にはUNOをしました。何回も挑戦したけれどもなかなか勝てませんでした。でも、とても楽しかったです。

翌日は弥彦神社を参拝し寺泊を散策しました。



短い時間だったけれどとても有意義な時間を過ごすことができました。

またこのような機会があれば体験したいです。

## ホームステイを受け入れてみて

### 江口 教子

外国の方と交流をしてみたいと思い、ホームステイの受け入れを希望しました。ベトナムの方が来て下さいました。

彼女はほとんど日本語が話せず、私たち家族も英語は中学生程度しか話せませんでした。きっと不安があっただろうと思いますが、彼女の明るさと「大丈夫。」通じなくても「そんなに重要なことではない。」という言葉に助けられ、二日間楽しく過ごせました。

一日目は有名なお菓子屋さんに行き、顔くらいある大きなかき氷をたべました。夜はちょうど商店街の夜店があり出かけました。消防署の消火器体験で、彼女は消火器の口を隊員に向け笑わせていました。重い消防服を着せてもらい写真を撮っていました。ダーツをしたり、射的をしてすごしました。

二日目は、北方文化博物館に行きました。英訳のパンフレットを頼りに館内を回りました。大広間の風がこちよいくつまでもそこにいられそうでした。

旦飯野(あさいの)神社では神主さんが一緒に写真を撮ってくださいました。

合間をぬって子どもたちは、日本やベトナムの手遊びを英語で話ながら、教えたり教えてもらったりしていました。

言葉が伝わらなかつたらどうしようと思いながら受け入れたホームステイでしたが、言葉だけが交流ではないのだと感じたよい機会でした。

## 実り多き2日間

### 川村雅子

今回、初めて留学生の受け入れをさせていただきました。以前から、ホームステイの受け入れをしてみたいという思いがあり、今回念願が叶い、とても嬉しく感謝の気持ちでいっぱいです。

ベトナムからの18歳の女性がきてくれました。我が家にも同じ歳の娘がいますので、とても嬉しく楽しみの当日を迎えました。笑顔の素敵などとても綺麗な女性。しかも昨年の秋に初めて日本に来たということでしたが、そうとは思えないほど日本語が上手で驚きました。

対面式の後、自宅で少し休憩をしながら、自己紹介や写真を見せてもらいながら友達のことや新潟での

生活について話しをしました。特に事前に予定は決めず、彼女の希望を聞きながら過ごそうと思っていました。夕方、夕日を見がてら朱鷺メッセの展望台に行きました。夕食はベトナム料理を作ってくれました。まずは食材を買うためにお買い物。彼女が普段利用している多国籍の調味料や食材が売っているお店に案内してもらいました。テキパキと食材を選んでおり、普段の彼女の生活の様子を感じられる一場面でした。私たちも初めて訪れるお店で勉強になりました。

帰宅後は、これもまたテキパキと、夕食の準備を始めていました。娘がお手伝いをする形で私はリビングでゆっくりさせてもらいました。二人がキッチンに立ち笑いながら楽しそうに支度をしている姿を見て、姉妹のようで嬉しくなりました。元々趣味が料理だと聞いていましたがここまでできるとは驚きました。二品の料理を作ってくれたのですが、本場のベトナム料理にお腹の膨らみも考えずに思う存分いただきました。

夜は近くに住む祖父母の家にみんなで泊まりに行きました。翌朝は庭の畑でトマトなど野菜を収穫し、庭で朝食を摂りました。“日本の朝食”ということにはこだわらず、彼女が普段食べている朝食を食べるという感じで、各々が食べたい物を食べました。ベトナムの食事や家族のこと、日本での学生生活やアルバイトのことなどを話題にしました。お昼からは娘たち2人のリクエストにこたえて、海に行きました。ドライブも兼ねて角田浜まで行きました。2人で浮き輪を持って海に浮かびながらいろんな話をしていたようです。その後は、展望台に行きました。長くて急な階段を上り、いちばん上まで行きました。新潟に住んでいながら、初めて展望台に登り、彼女のお陰で絶景を堪能することができました。

2日間一緒に過ごし、私たちも様々なことを学ばせてもらいました。将来についてもしっかりと考えていて、自立心が強いということを感じました。家族思いで、家族の絆が強い国だということも知りました。

今回の経験は、娘にとっても私にとっても学びあり、楽しみありの最高の時間でした。娘にとっては、同じ歳のお姉さん!? (笑)、私にとっては娘が一人増えました。

将来は、母国でベトナム料理店を開きたいとのこと。彼女の素晴らしい夢を日本の家族として応援し、彼女の活躍をお祈りしたいと思っています。

そして、このご縁を大切に、手紙での交流や新潟にいる間は、たまに近況報告もしたいと思っています。

素敵な機会を与えていただきまして、ありがとうございました。



## ホームステイの思い出

川村 菜由香

7月29日、30日に、ベトナムの女の子がきました。説明が終わった後、みんなで、かき氷を食べにいきました。食べ終わった後、だかしやさんに行って、だかしをかいにいきました。帰って来て私と弟と、友達とみんなでいっしょに水遊びをしました。水ふうせんで遊びました。

その夜、ベトナム料理を作ってくれました。あげ春巻きを作ってくれました。そして、きゅうりにとうがらしを入れたものを作ってくれました。食べてみたら、すごく良かったです。夜は、花火をしました。

次の朝、パンを買いに一緒に近所のパン屋さんに行きました。ついでに私の学校も見に行きました。そして、たこを見に行きました。そして、たこも作りました。

お昼、おすしを食べに行きました。その後ところてんを食べに行きました。夕方、おわかれはすごく悲しかったです。でも楽しいので来年もやりたいです。そして、また会いたいです。



## 留学生を受け入れての感想

佐々木 愛

昨年に続いて2回目でしたので、今回は家族みんなが構えることなく迎えることができました。

我が家に来てくれたのは手先がとても器用なネパールの女の子でした。

幼い子がいるのを知って手作りの雨雲の飾りをお土産に持ってきてくれました。それが可愛かったのも、うちの子の自由研究に良いと思いお願いしたら快く一緒に作ってくれました。

朝食では玉子焼きとおにぎりの作り方を教えたのですが、すぐにマスターしてキレイに美味しく完成させていました。本当に器用なんです！

玉子焼きは味りんも入れたのですが、味りんは何かと聞かれ、上手く答えられずにゴメンナサイ。ネパールではこういったたまご料理の時は牛乳を入れ、野菜を混ぜて焼くと言っていました。

料理の話で面白かったのは、日本では夏に冷たい麺類をよく食べるけど、それは口に合わないとのこと。日本に来てビックリしたと言っていました。そしてまさにそんな冷たいそばを食卓に出そうとしていたので、急ぎょ温かいそばに変更しました。

学校の話でも興味深かったのは、小学生になるとどの授業も英語で母国語は国語の授業だけだということ！衝撃でした！

なので英語は問題なく話せるそうです。ちなみにネ

パール語の発音はたくさんあるとかで、例えば「あ」だけでも5個だったかな？ もっとだったかな？ の言い方があるとのこと。

だからどこの国の言葉も聞けば上手く真似て発音出来るそうで、とても驚きそしてうらやましかったです。

まだまだ書ききれませんがとにかく一緒に楽しい日を過ごせました。

勉強とバイトに大変だとは思いますが頑張っただけで夢を叶えてほしいと思います。

応援しています。



## ホームステイ受け入れの感想

関 毅

今回、初めて留学生の受け入れを体験させていただきました。

二人の子どもに異文化交流の機会をつくってあげたいと思い応募しました。

我が家にホームステイに来たのは、中国から来た24才の留学生。最初はお互い少し緊張していましたが、少しずつ打ち解けることができました。

初日は、対面式の後、お互いに自己紹介をしてから夕飯の買い出しに出かけました。買い出しから戻ってきてから夕飯ができるまでは子ども達と遊んでもらいました。夕飯は肉じゃがを皆でおいしく食べました。

夕飯の後、近所にある昔ながらの銭湯に行ってきました。赤いボタンを押すと熱湯が出る蛇口と青いボタンを押すと水が出る蛇口、ふたつ使って湯桶のお湯がちょうど良い温度になるように調節したりするのが、慣れないので難しかったようですが、なんとか使いこなしていました。湯船のお湯が熱かったので、少しのぼせそうになっていましたが、銭湯は初めてとのことと刺激的な経験だったようです。

二日目はマリニピア日本海に行きました。水族館は初めてとのことと、興味深そうに魚の写真をあちこちで撮りながらも、人混みの中で子ども達がはぐれることがないように気をつけてくれました。

昼飯は店でうどんを食べ、午後は家でゆっくりと話をして過ごしました。学校のこと、バイトのこと、実家の家族のこと、将来のこと。落ち着いて話をすることができて良かったです。

お別れの時には、寂しくて子どもが泣き出してしまいました。それを見て、2日間、子ども達も良い時間を過ごせていたのだなと思いました。1泊2日の中で家族全員が貴重な体験をすることができました。応募して良かったです。ありがとうございました。

## 富樫景子

この度、初めてホームステイに応募致しました。我が家に来てくれたのは、20歳のロシアの女の子でした。事前にお電話で一度話をしましたが、流暢な日本語に驚き、また実際に会ってみると、露・英・日・韓を話すマルチリンガルな才女でした。2日間、色々な事を行いました。飲み込みが早く、彼女の優秀さを実感致しました。

初日は、茶道の体験から始めました。初めてだったようですが、姿勢や手つきはとてもしなやかでした。「お先に頂戴致します」という日本語があまりにも流暢で、先生方も感心しておられました。帰宅後は、総勢9名での夕食。お酒もすすみ楽しいひと時でした。近所の公園での盆踊りにも参加致しました。佐渡おけさはすぐに習得。万代太鼓も子どもたちに混ざり体験致しました。日本色の濃い初日となりました。

2日目は、事前にリクエストをしてくれたBBQです。お昼から海に出向き、BBQや水遊びをしました。また家では子どもたちの家庭教師になってくれました！幼稚園児2人のワークは彼女にとってはとても簡単だったようで、本物の先生さながらでした。

「We're Going on a Bear Hunt」は子どもたちが大好きな英語の歌です。彼女にBearになってもらい、家中を駆け回っていました。今回のステイで1番楽しかったようです。

応募の1番の目的は子ども達が英語に触れる機会を作りたいという事でしたが、9割方日本語で会話してしまいました。彼女は何語でもOKだよと言ってくれたので、もっと積極的に話したら良かったなと反省しています。また、これを機会に新潟でも個人的に交流できたらと思い応募致しましたが、殆どの方が留学期間を終えて帰国されるとのこと、残念に思います。開催時期を留学期間の中に設定して頂けると、双方にとって良いのではないかなと感じました。

「おもてなし」が出来たかどうか不安ですが、楽しい時間だったと感じてくれていたらそれで成功です！来てくれてありがとう。また遊びにきてね。

★★

## ホームステイを経験したよ。

## 長井 翼

## 一日目

七月二十九日、ぼくの家、ホームステイの人が来ました。ホームステイとは、外国人が日本の家にとまって一緒に生活を経験することです。

まず、クロスパルにいがたに、午後一時に行き、そこではじめて、ぼくの家に来る人に会いました。中国から、新潟に来た大学生のお姉さん二人です。二人からプレゼントのひまわりをもらいました。クロスパル

にいがたを出ると、バスにのって魚べい、と言うすしやへいきました。お姉さんたちは、すしが好きだと言っていました。あまりたくさんは食べませんでした。

そのあと、ウオロクというスーパーに行って、夕ご飯の買い物をして家に帰りました。

家で中国の水ギョウザのじゅんぴをしてから、今日は、上木戸神社で上木戸ふれあいまつりがある日なので行きました。

しりずもう大会のよやくをしてからヨーヨーつりをしました。一個もつれなかったけれど、一つもらいました。そのあとしゃてきをやりました。一回目は、いっこもあたらなかったのもう一回やりました。すると二ことれました。かき氷メロン味を食べていると、しりずもう大会のじゅんばんが来ました。でも一げきでまけました。とてもくやしかったです。参加賞の花火をもらいました。弟も妹も一げきで負けました。花火が四つあつまりました。四つの理由は弟が今日の朝おとまり保育のごほうびでもらってきたからです。

そのあと、家に帰って来てお姉さんたちから中国の水ギョウザを作ってもらいました。日本の食べ物は、パパがたこ焼きをつくりました。たこ焼きはなかなか焼けないので待っている間に水ギョウザを食べました。日本のとちがうところは、作り方とかたさと味でした。とくに日本のとちがってしょうゆの味が強かったです。その後、たこ焼きと水ギョウザをいっしょにたべました。その後、お風呂に入ってねました。

## 二日目

つぎの日、七月三十日には、朝、早起きして、きのうしゃてきでとったプロペラで弟と遊びました。弟と妹が、お姉さんたちを起こしてしまいました。その後、パパとママを起こしにいきました。

朝は、ご飯、みそしる、サケ、なっとう、うめぼしをパパが作り七人で食べました。おいしいと言ってたけど、なっとうとうめぼしは、はじめて食べたように感じてました。

その後、アイロンビーズを少しやりました。九時近くになると、ぼくがなっている空手の道場に行きました。七人だったので、パパが車で、二回に分けて、送ってくれました。中国から来たお姉さんがいたので、空手の小休止のときに、茶色一本線おびの空手の上手な人が、組手を見せてくれました。すごくはく力がありました。

空手が終わった後、木戸病院からバスにのって、新潟駅に行きました。そこでのりかえして、マリンピアに行きました。パパがチケットを買ってくれました。中にはいると、さいしょにいたのは、青色の魚でした。その後もいろいろなたくさんの魚を見ました。チンアナゴや大きなアナゴやアカハライモリもみました。お

姉さんたちは、クラゲを見つけると、写真をとっていました。お姉さんはクラゲがすきだそうです。

その後、イルカショーを見ました。カマイルカはとてかわいかったです。バンドウイルカは大きくて泳ぎがじょうずでした。その後、ペンギンを見に行きました。とても元気でした。でもぜつめつきぐしゅだそうです。その後にしきごいを見てから歩いてパパの知り合いのレストランに行きました。ぼくは、パスタを食べました。

その後バス停に行って、駅にもどり家に帰りました。

家につくと、今朝、自分が作っていたアイロンビーズをかえ、カマイルカにしてお姉さんたちにマリリンピアに行った思い出にあげました。その後、お姉さん二人の名前をいれた丸いケーキを食べながらおわかれの会をしました。会の後、車でぼくとパパでお姉さんの家の近くまでおくてあげました。

お姉さんが来てとても楽しい二日間でした。

### 小学校3年生の夏休み

長井 直木

我が家は5人家族です。僕と妻と小学校3年生の長男、保育園年長の二男、年少の長女が一軒家に暮らしています。このため、子どもたちの笑い声、叫び声、泣き声、そして僕と妻の怒鳴り声と朝から晩まで賑やかです。そんな我が家ですから、自宅にホームステイを受け入れるなんてことは、これまで無縁だと思っていましたし、先方様もできれば受け入れられたくない家なんだろうなあということは容易に想像できました。しかし、今できること、今やりたいことは何でも体験してみようという主義の我が家は、今夏、新潟市国際交流協会の「留学生のためのホームステイ」の受け入れを申し込むことにしました。

我が家でのホームステイの受け入れが、どんな様子だったのか、どんなに楽しいものだったのかは、長男が約1,800字に亘る感想文に記しています。

・中国から来た2人の大学生のお姉さんに出会ったこと

・地域の神社のお祭りで尻相撲大会に参加したこと

・夕食に中国の水餃子を作ってもらい、パパが日本のタコ焼きを作ったこと

・朝食でご飯、味噌汁、鮭、納豆、梅干しを食べてもらったこと

・(長男が習っている)空手道場に行って、組手を見学したこと

・水族館マリリンピア日本海に行ってイルカショーを見たこと

・アイロンビーズでカマイルカのブローチを作ってプレゼントしたこと

・お姉さん達の名前の入った丸いケーキを食べてお別れ会をしたこと

と、要約してしまえば、僅かそれだけのことですが、小学校3年生の夏、彼がホームステイの受け入れを体験して、その時に感じた気持ちをそのまま書いたものに勝るものはないと思うので、詳細はそれに譲りたいと思います。

最後に、楽しい2日間を一緒に過ごしてくれた留学生お二人に感謝するとともに、今後のご活躍を祈念しています。



藤田 靖

我が家にとっては初めてのホームステイの受け入れとなり申込の前に家族会議。両親とも相談し、今回受け入れすることになりました。1番のり気だったのは下の娘小学6年生。

当日、どのような人と会えるのか楽しみと不安とが入り混じり、対面式で娘が笑顔でOKと手でサイン、とてもかわいらしい人で私もひと安心。

初日、娘の通う学校で地域の祭りが開催されていたので娘の友達も一緒に祭へでかけました。

食事もお心配でしたが、魚、鶏肉、みそ汁、枝豆、とうもろこし等用意し、母国ではこんな野菜がある、味付けはこんな感じだなど教えてもらいました。

とても気を使ってくれ「みんなおいしい!」と言ってくれました。家族に言われる以上にととても嬉しかったです。

二日目、本来なら初日に親戚を呼んで多勢でいろんな話をしたかったのですが都合がつかず、朝、姉の家族が遊びに来てくれ、子どもが好きな方だったので高校生とも仲良くなり、時間があればもっと話ができたらよかったのにと少々残念な思いもしました。

帰りの時間も気になるところですので、午前のうちに胎内フィッシングパークへ、焼いた魚を美味しくそうに頬張る姿はとても楽しそうで、一緒に過ごせる時間が宝物となりました。

貴重な体験をありがとうございました。



### 留学生を受け入れて

藤森 碧以

僕の家は、今年初めて留学生を受け入れました。僕の家には、中国の女の子が来てくれました。対面式の時に、どんな人が来るのか楽しみでした。しかし、会話ができるかと不安でとても緊張しました。しかし、会って見るととても優しい人で最初は緊張したものの、たくさん話せてよかったです。

初日は黒崎の埋蔵文化財センターに行きました。展示品を見た後に、みんなで銅鏡のレプリカを作りました。完成後、お互いの鏡をのぞきあったりしました。

家に帰った後、日本の名前を中国の言い方に直して教えてもらいました。中国だけの発音もあり難しかったです。特に舌を巻く発音が難しかったです。

2日目は祖父母の家に行きました。その後に家でボーリングのゲームをしました。白熱した試合になって楽しかったです。短い時間でしたが楽しく交流できて良かったです。

この体験は小学校生活の良い思い出になったと思います。

また、来年も体験したいです。



## 「ウサギ」さんが来て

細川 悠一

暑かったその日、留学生のいる「クロスパルにいがた」を目指していた。「大丈夫かなあ。」僕は行く途中、不安に思っていた。そんな中、クロスパルに着いて、対面式が行われた。

それぞれのご家庭が決まっていき、自分の名前が呼ばれた。

留学生は、女子学生で背の高い人だった。また、ニックネームで、互いを呼ぶことにした。僕は「ユウ」、留学生は、「ウサギ」と呼んで欲しいと言った。彼女は「ウサギ」が大好きでそのアクセサリーを持ち歩いていた。

式が終わり、一緒に、「ふるさと村」に行くことにした。ついてお茶をしたら僕は外に行きたくなくなっていた。親もウサギさんと庭に行き行って来たらすすめたので、一緒に大きな池の周りを歩いて、色々な話をした。魚のことや、日本の家の様子など、楽しい話が出来た。おかげでそれまでの不安は飛んでいってしまった。

家に帰ってから、ウサギさんが、アニメが大好きなことを知ってその話をした。僕の好みの「ナルト」の話もした。夕方になったので、家族で和食を食べに行った。そこで、ウサギさんが中国での話をしてくれた。英語や社会の勉強が得意なこと、運動会では集団行動があることなど、面白かった。

次の日、ウサギさんから中国の古代楽器のことを教えてもらった。その楽器でアニメの演奏を聴かしてくれた。すごく高い音が出る楽器やそれとは、逆に、とても低い音が出る楽器があり、聴いていると音楽の世界に飲みこまれるように感じた。



## ホームステイ受け入れ初体験

本田雄二・清美

定年退職したら、ホームステイ受け入れをしてみたいと考えていました。退職1年目の今回、申し込みしたところ、念願が叶って、早速受け入れることができました。それも、2人！受け入れが決まってからというもの、対面式当日を待ちわびて過ごしました。

当日、夫婦でクロスパルに行き、2人の中国人女性と顔を合わせました。記念撮影後、自宅へ向かいました。車中で呼び名、趣味、食べ物の好き嫌いなどを聞きました。吉林省の学生で、4月から新潟の専門学校で日本語の勉強をしているとのことでした。2人とも日本語がとても上手で、わざわざ下手な英語を使う必要はありませんでした。

自宅へ行く途中、角田岬の荒々しい岩場や洞窟を見て、感動していました。灯台まで登り、浜茶屋で海を見ながら、かき氷を食べました。岩室温泉では足湯に浸かりました。

自宅に着いて少し休んだ後、スーパーで夕食・朝食の食材を買いました。夕食は我が家自慢のカレーにしましたが、おいしそうに食べ、進んで食器を洗ってくれました。

夕食後、カラオケを誘いましたが、あまり乗り気ではなかったので、花火をしました。喜んでスマホで写真を撮っていました。

テレビで映画『君の名は。』の主題歌「前前前世」の曲が流れると、アニメ好きなので、そのたびにニコツとしていました。

日本語での言葉を中国語で何と言うかを聞いてみました。大豆は「大豆」ですが、「ダートー」と発音し、西瓜・南瓜も文字は同じながら、発音はそれぞれ「セイクウ」「ナンクウ」と言い、トウモロコシは「玉米」(ユーミー)と言うそうです。

翌朝は「ゆっくり寝ていていいから」と言っておきましたが、6時過ぎには起きて洗面を済ませていました。布団もたたみ、部屋の掃除もしてくれました。

朝食は、ご飯にみそ汁、納豆と海苔、サラダ、目玉焼きなど、あっさりしたものにしました。納豆も抵抗なく、どれも「おいしい」と言って食べてくれました。

10時過ぎから、茶道体験をしました。妻が長年茶道をしているので、ぜひ体験させてみたいと考えました。せっかくなので、2人に浴衣を着せました。とても可愛らしく仕上がりました。季節の和菓子を用意し、茶席の簡単な説明もしました。2人からの希望もあり、実際にお茶を点めました。

昼食はソーメンにしました。先月、たまたまソーメン流しキットを買っておいたので、その使い初めを兼ねてみました。ソーメン自体はあまりスムーズに流れなかったものの、2人はとても楽しそうに掬っていま

した。

午後になり、いよいよお別れです。プレゼントを渡し、駅まで送っていき、電車に乗せてさよならしました。

わずか正味1日のホームステイ受け入れでしたが、とても楽しく、よい体験ができました。2人は生活費を稼ぐために、バイト三昧とのことですが、無理しないで過ごしてほしいと思っています。そして、帰国前にいつでも訪ねてきてくださいね。

今回は、我が家の子ども（男2人）は仕事があり、一緒に過ごせませんでした。次回受け入れの時には、ぜひとも体験させたいと思います。

今回受け入れた2人は素直で礼儀正しく、よくできた娘さんたちでした。いつも、「はいっ」と返事してくれていたのが印象に残っています。おかげで気分よく過ごすことができました。可愛い娘が2人できたようにも感じました。1泊2日でのミニ異文化体験ができ、いいことづくめでした。少しでも国際交流に役立ったとしたら、ありがたい限りです。次回もぜひ希望したいと思っています。



## 留学生を迎えて

水野 綾子

以前にお二人の留学生を迎えたことがありました。その当時は4人の家族で迎え入れ、楽しい時を過ごし、その思い出は宝物になっています。

ですが、今回は、主人を亡くし、子どもは巣立っていったので、一人生活の私は、ちゃんとおもてなしができるのか不安がありました。ですが、対面式で満面に笑みの留学生を見、「そんな心配はいらない」、と思いました。

思ったとおり、彼女はとてもステキな人でした。わずかな滞在の中、お互いの良い所を吸収し、異なる文化を新鮮な喜びに変えてくれました。

彼女はとても努力して日本にきて勉強しています。自分の目標をしっかり持ち、夢を抱いています。日本の若者に聞かせたい話ばかりでした。

できれば日本で結婚し、ずっと日本に暮らしてくれたらなあ、なんて、先の願いまでもってしまいました。



たのしかったね♥